

にお集まりいただいている会議で、「支援の基盤作り」という性格を持っている。

今回は、まず、上述した横浜市での高校進学ガイダンスの内容をやや詳しく報告させていただいた。鍵となるのは、「進路保障」に対する考え方である。中学3年次に日本語指導を必要とする生徒が一般入試で受検して合格することが極めて難しいことは言うまでもない。そういう生徒を積極的に高校が受け入れて育てるという進路保障の考え方が大事だし、今後ますます求められるのではないかと言う点で意見交換した。栃木県では特別措置があるが、「入国後3年以内」の資格要件が壁となって、ほぼ例年、措置を受検できる生徒は外国人生徒全体の1割に満たない。資格要件の緩和を栃木県に要請していくことも必要であると話題に上がった。

次に、昨年栃木市で開催した多言語による高

校進学ガイダンスと今年8月に真岡市国際交流協会主催のスペイン語教室 AMAUTA で行った夏休み中の外国人児童生徒学習支援の様子を映像で観ていただいた。前者は栃木ケーブルテレビが、後者は真岡ケーブルテレビ（通称いちごテレビ）によって取材・放映されたものである。

一番時間をかけて話し合ったのは、平成28年4月からのHANDSの在り方と方向性についてである。現在のHANDSは文部科学省特別経費プロジェクトとして事業展開しているが、この経費は次年度で終了する。その後、どのようにしてHANDSを継続させていくか。HANDSに対する高いニーズを様々な教育現場や地域から感じているので、現在進んでいる大学改革の議論とも関連付けて検討を進めていく必要がある。HANDSの存続を何とかして図っていきたいと考えている。

.....

本学における「多言語による高校進学ガイダンス」(2014.10.26)体験談発表より 「今までの自分、これからの自分～夢は努力次第～」

工学院大学大学院博士後期課程1年

新垣 一

プロフィール

小さいときにペルーから来日し、栃木県真岡市内の小・中・高等学校で教育を受ける。高校卒業後は、工学院大学に進学し、卒業後も電気の研究をするために、東京大学大学院に進学。前期課程を修了後、現在は、工学院大学大学院後期課程で研究を続けている。

6歳までの自分

<初めての買い物>

スーパーでは、欲しい物を指さして「これひとつ」、レストランで注文するときは、メニューの中の食べたいものの写真を指さして「これ一つ」とだけ言って、買ったり注文したりしていた。

<初めての遠足>

連絡帳に記載の「もってくるもの」リストにあった「おしぼり」がわからなかった。「おしぼり」って、何？という経験をした。

<初めての市役所>

住所変更の時に漢字を書く経験をしたが、「栃木

県」や「真岡市」などの漢字が難しかった。「栃木県」の「栃」の字が非常に難しかった。

12歳までの自分

<初めての運動会>

借り物競走という親子競技をしたが、両親がわからないため教えてあげた。

<母親への反抗>

マドンナ好きの母親は、金髪にしている。友だちのお母さんとは、見た目がだいぶ違うので、いつもそんな母親に反抗していた。

<習い事>

スイミング、サッカー、そろばんを習っていた。

中学校～高校卒業までの自分

<初めての三者面談>

担任の先生が「成績が悪い」と言ったのに、親に「成績が良い」と嘘の通訳をした。次のテストで挽回した。

<イギリスへの海外派遣>

日本から出国する際、自分だけ外国人なので、別のところで手続きをするため、一行と一旦別れ、飛行機の中でみんなと合流した。外国人は、何かと面倒だ。

<初めての高校受験>

高校進学は外国人にとって難しいことだが、子どもはまだそれをわかっていないと思う。自分も、「どの高校でもいいや」「近ければいいや」という気持ちで、受検校を決めた。自宅近くの高校に合格した。真剣に高校を選ばなかった結果、自分より成績の悪い友だちが、自分より上位校に進学したのを知り、自分に腹が立ったし、「えー、嘘でしょう?」と、不満・怒りなどがこみ上げ、それを全部、高校入学後、勉強に向けることにした。誰にももう負けたくない、という気持ちでいっぱいだった。

<初めての生徒会長立候補選挙演説>

初めて全校生徒約600人の前で演説したが、頭が真っ白になった。これはみなさんも一度経験した方がいい体験だ。よく大勢の前で話をする校長先生を尊敬した。

高校受験前後あたりから高校時代の体験が、その後勉強するきっかけとなった。

高校卒業後は、浪人することになった。一年間、朝6時半から夜10時まで、食事の時間以外はずっと勉強をした。本当に辛かった。両親に、「予備校代へ68万円払ったから、頑張てね」と毎日電話で言われ、辛かった。この厳しい愛情が僕の頑張る原動力になったと、あとになって分かった。

大学入学後、予備校で学んだことを生かして、塾でアルバイトをした。3年後、真岡市で外国人児童生徒を対象とした学習塾を開いた。自分の弟にもその塾生として教え、高校進学を果たす。今もたくさんの外国人の子どもたちに教えている。月謝は全部両

親への恩返しと思って、自主的に両親に渡している。

夢を見つけた。外国人には、日本で生きていくには、今でも厳しい状況だと思う。例えば、市役所の求人には、外国人は排除されている。外国人労働基準法も完璧ではない。だからといって、子どもを帰化させるのも、お金と時間を費やすなどの多くの困難がある。だから、外国人の子どもたちには教育が必要と考えているから、もっともたくさん外国人の子どもに塾に通ってもらい、たくさんの外国人の子どもに高校に進学して欲しい。そのために、合格するよう支援していきたい。

私の学歴だけみたら、すごいと思うかもしれないが、実際はそうでもない。自分にでもできたのだから、みなさんにもできるはず。努力すれば、道は開き、進ませてくれる。自分の子どもはかわいいから甘やかしてしまうかもしれないが、厳しくするのも親の愛情だと思うので、親は自分の子どもの可能性を信じてあげて、頑張らせてあげて欲しい。

質疑応答より

①高校受験の時に、どんな努力をしたのか、具体的に教えて欲しい。

→学校で配布されている「ワーク」を使って学習した。焦って、難しい問題を解くよりも、まずは基礎問題を何度もやるのが大切だと思う。

②真岡市で開設している学習塾で継続して外国人児童生徒へ学習支援していきたいようだが、具体的に教えて欲しい。

→真岡市の塾に物理的に通えない外国人児童生徒のために、他市町に住んでいても学べるよう、テレビ電話で授業が実施できる設備を整えようと考えている。

③東京大学大学院、工学院大学大学院と高等教育機関で研究を続けているので、もっと大きな夢があったら教えて欲しい。

→真岡市で開設している自分の塾を大きくすると同時に、研究を続けている電気についてももっと勉強して、電気について苦手なたくさんの人たちのために、できるだけわかりやすい電気の授業をできる大学の教授になりたい。